

## 2023年注目の天文現象

いよいよ新しい年のスタートです。2023年はどうのような天文現象が起きるのでしょうか。今年も11月に月食が見られます。夕空には、宵の明星が輝いて見えるようになります。流星群も条件がよく、期待が持てます。今年注目の現象を紹介しましょう。

### 日食・月食

前回、日本で日食が見られたのは2020年でした。その後は、残念ながら日本の多くの地域で10年間日食を見ることができず、次に見られるのは2030年になります。しかし一部の地域に限って、今年4月20日に部分日食を見られるチャンスがあります。

日食が見られるのは、図1に示した南西諸島や九州・四国・紀伊半島南部などの地域です。しかし、近畿地方では潮岬まで行っても最大食分はわずか0.025で、ほんのわずか欠けるだけです。なおこの日食では、オーストラリアのごく一部の地域や、インドネシアのニューギニア島で、皆既日食となります。

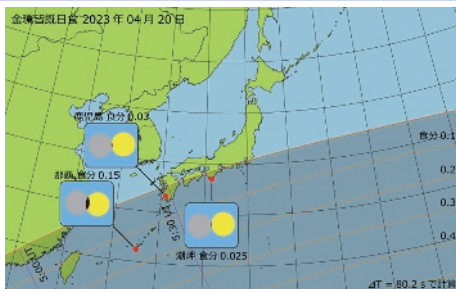


図1 日食が見られる地域

また、10月29日の早朝には、部分月食を見ることができます。こちらも月の端の部分が一部欠けるだけになりますが、大阪でも月が欠ける様子が分かります。

月食が始まるのは、早朝の4時35分です。ただし、実際には地球の影の境目ははっきりしていませんので、これよりも少し早い時間から、月の端が暗くなっている様子



図2 地球の影に対する月の動き

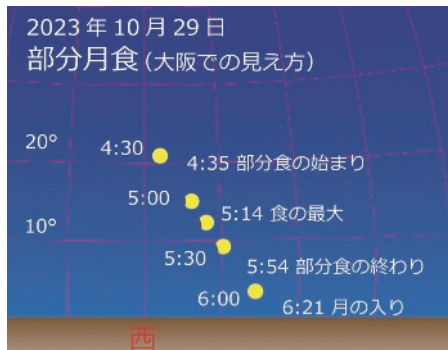


図3 大阪での見え方

が分かります。食の最大となるのは5時14分で、食分は0.13です。その後、5時54分に月食が終わります。なおこの日、大阪で月が沈むのは6時21分なので、西の空かなり低い場所で起こる月食となります。

来年2024年は日本で月食が起こらず、この次、大阪で月食が見られるのは2年後の2025年9月8日になります。早朝ですが、ぜひ観測したいものです。

### 惑星のうごき

金星が夕方空に戻ってきました。昨年前半に明けの明星として見えていた金星が、今年は年明けから半年以上の期間、夕方空に明るく輝くようになります。7月7日にはマイナス4.5等級の最大光度になり、7月いっぱいまで西の空に見えています。その後、9月からは明け方の空にまわり、年末まで明けの明星として輝く姿を見ることができます。

水星はいつも太陽に近いので、夕方西の空か、明け方の東の空低い場所にしか見ることができません。動きも早いので、観測しやすい時期は限られています。(右表参照)

火星は昨年12月1日に地球に最接近したあと、引き続き明るく輝いています。年初は午後9時ごろ、頭の真上近くに見えています。その後、徐々に暗くなりながら西の空に移動していき、7月頃まで見ることができます。

木星は、3月終わりまでは夕方西の空に見えています。4月以降は太陽に近づき見えなくなってしまいます。その後、5月終わりごろから、明け方の東の空に見えるようになります。11月3日に衝(地球から見て太陽の反対方向にある状態)になり、一晩中見える観望好機となります。

土星は、1月は夕方空に見えていますが、2月以降は太陽に近く見えな

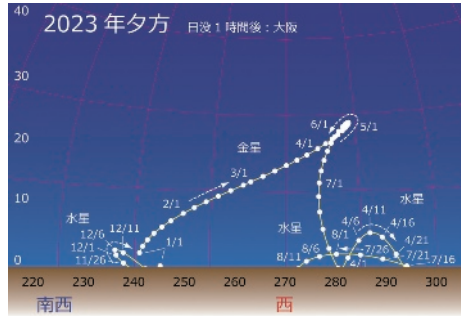


図4 水星と金星の動き

2023年に水星を見やすい時期	
夕方西の空	明け方東の空
4月中旬～下旬	1月下旬～2月上旬
7月下旬～8月上旬	6月上旬
12月上旬	9月下旬

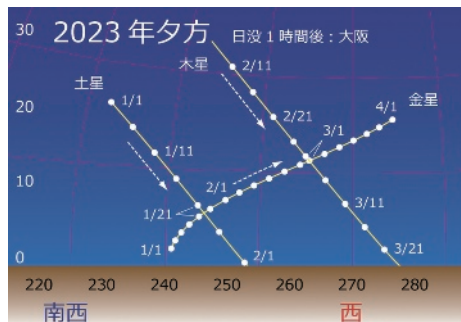


図5 金星と木星・土星の動き

くなります。4月以降、明け方に見え始めます。8月27日に衝になりますので、年の後半は観望好機となります。

図5は、1月から3月にかけて、日没1時間後の、金星、木星、土星の動きを示したものです。1月22～23日には、金星と土星が接近して見えます。また3月2日には、金星と木星が角度にして0.5度まで大接近します。

### アンタレス食

9月21日には日本全国で、さそり座の1等星アンタレスが月に隠されるアンタレス食が起こります。月が恒星の手前を横切る星食は時折起こりますが、明るい1等星が月に隠される星食は珍しい現象です。前回、夜間にアンタレス食があったのは2005年でしたので、実に18年ぶりということになります。

大阪での潜入時刻は17時17分ごろです。ただし、この日の大阪での日の入りの時刻は17時57分のため、望遠鏡でないと見ることはできません。隠されていたアンタレスが再び現れる出現時刻は18時44分ですが、まだ薄明が終了していないので、やはり肉眼では見づらいです。

なおアンタレス食は、12月12日、および2024年6月20日にも起こりますが、いずれも昼間の時間帯となるため、観測には望遠鏡が必要です。

また惑星が月に隠される惑星食としては、南西諸島で3月24日に、金星が月に隠される、金星食を見ることができます。大阪では金星食となりませんが、三日月の細い月に金星が大接近する様子が見られます。

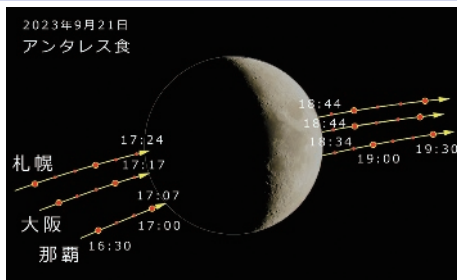


図6 アンタレス食

### 流星

8月のペルセウス座流星群は、月が新月に近いので、観測のチャンスです。流星群の活動が最も活発となる極大の時刻が13日17時頃の予想のため、13日の明け方か、14日の明け方にたくさん流れ星が見えそうです。

また、12月のふたご座流星群も期待が持てます。こちらも夕方月に沈んでしまうため、月明かりの影響がありません。さらに極大が15日の真夜中ごろの予想となっており、14日の夜から15日の明け方にかけて、多くの流れ星を見ることができると期待されます。

江越 航(科学館学芸員)